

令和 6 年 11 月 25 日

城里町議会議員 藤咲芙美子

議員研修報告書

研修先	茂木町有機物リサイクルセンター「美土里館」 道の駅たかねざわ元気あっぷむら
日程	令和 6 年 11 月 13 日（水）
参加者	総務民生常任委員会 教育産業常任委員会
内容	1) 美土里館の運営コンセプト・施設概要について ① 枯れ葉集め、落ち葉腐葉土を町内里山に 1 袋 15 kg 400 円で買い取っている。一世帯 300 袋で 6～7 千袋になり 12 万円の副収入になるという。 高齢者が山で働き元気になる健康増進にもなるという。 ② 材木の買い取り 1 トン当たり 7150 円 山に捨てられる材木は CO2 削減にもなる。当初は町内のみであったが、最近埼玉県、茨城県は鉾田市、福島県まで販売を広げている。 ③ もみ殻、そば殻を受けている。130～160 世帯農家から引き取っている。全国で 4 台しかない機械だそうです。 ④ 廃油の改修 ⑤ 牛糞は落ち葉など混ぜ合わせ発行させ肥料に ⑥ 乾燥させる ⑦ 最後袋詰め においなしサラサラの肥料に変身 町内 4 割 県外に 6 割販売しているなどトータルで 11 か所まで丁寧に説明を受けました。 【所感・感想】 「美しい地球の保善と人にやさしい環境図栗を実現するために生命の糧を与えてくれた大地に感謝し、地球をより安全に健全な状態で子孫に残していきます」とうたっている。徹底した廃棄物の利用で良質の肥料を生み出す。ここまでやれることに「意気込みが違いますね」と感銘しました。 当町での衛生センターの改修当初、廃棄物を「肥料にできないか」と聞きましたが、「助燃材」に、と環境センターで燃やすことになりました。「リサイクル」にしたい。と今でも胸の片隅にあります。
	2) 道の駅たかねざわ元気あっぷむらの運営について 「行きたくなる場所、ここにしかない空間」と押し出し、道路利用者等への休憩場所の低お経、地域情報の発信、温泉、地場の農産物、遊びや体験、宿泊サービス等々地域経済の活性化、観光振興、健康づくりの推進、住民福祉の向上を図ることを目的としている。 【所感・感想】 交流人口の成功体験や認識した課題、問題解決に向けたチャレンジ、リニューアルに向けて、現在の取り組みなど説明を受け交流しました。 集客と活躍の場を創設し「ここにしかない」付加価値を生み出すなど町民の関わりを深め、交流人口・定住人口の増加につなげている。町をどのようにしたいか町が経営者として責任を持つ「意気込み」が感じられた。